農業は大寒に学ぶ全国会議の文献

農業は大寨に学ぶ全国会議の文献

外文出版社
北　京

農案は大案に学ぶ全国会議の文献

1977年初版発行　　**定価100円**

出版者　外文出版社
（北京阜成門外百万莊）

発行者　中国国際書店
（北京 P. O. Box 399）

取扱店　東方書店（東京）亜東書店（東京）
中国書店（福岡）（株）内山書店（東京）
（株）満江紅（東京）朋友書店（京都）
（株）燎原書店（東京）中華書店（東京）

編号：（日）3050—2741　　3—J—1451P
00050

目次

農業は大寨に学ぶ第二回全国会議における講話（一九七六年十二月二十五日）
中国共産党中央委員会主席　華国鋒……1

全党を動員し、大いに農業にとりくみ、大寨式の県を普及させるために奮闘しよう（一九七五年十月十五日）
——農業は大寨に学ぶ全国会議における総括報告
中国共産党中央政治局委員・国務院副総理　華国鋒……45

「四人組」を徹底的に批判し、大寨式の県を普及する運動の新たな高まりをまき起こそう（一九七六年十二月二十日）
——農業は大寨に学ぶ第二回全国会議における報告
中国共産党中央政治局委員・国務院副総理　陳永貴……75

農業は大寨に学ぶ
第二回全国会議における講話

（一九七六年十二月二十五日）

中国共産党中央委員会主席　華　国　鋒

同志のみなさん

われわれの会議はまもなく閉会する。

今度の会議はひじょうにすばらしかった。陳永貴同志が党中央を代表して、すばらしい報告をおこなった。多くの同志が会議で発言した。みな、意気込みにもえ、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

意気軒昂として勝利への確信にみちあふれていた。今度の会議は、七億農民のあいだで、王・張・江・姚「四人組」をほりさげて摘発、批判する動員の大会であり、農業は大寨に学び、大寨式の県を普及する運動を深めるための促進大会であり、毛沢東思想でわれわれの認識と行動を統一する大会であり、団結勝利の大会であった。

われわれは、今度の会議で毛主席の輝かしい著作『十大関係について』をしんけんに学習したが、全党、全軍、全国各民族人民は、みなこの輝かしい著作をしんけんにつっこんで学習しなければならない。一九五六年、毛主席はこの著作のなかで、ソ連の経験をいましめとして、わが国の経験を総括し、社会主義革命と社会主義建設における十大関係について論じ、わが国の状況に適合した、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線の基本思想を提起した。毛主席がこの著作の中でうち出した基本方針は「**われわれはかならず、党内党外、国内国外のあらゆる積極的な要素、直接的、間接的な積極的要素をぜんぶ動員し、わが**

国を強大な社会主義国にきずきあげるために努力しなければならない」ということである。今度の会議は、ほかでもなくこうした基本方針を遂行したものであり、われわれは諸方面の仕事でこの基本方針を遂行しなければならない。

会議のあと、全国の広大な農村には、「四人組」の摘発、批判を深め、農業は大寨に学び、大寨式の県を普及するという偉大な革命的大衆運動を一歩すすんでくりひろげる、新たな高まりがかならず急速に巻き起こるものとわたしは確信している。これは全局にかかわる大きなできごとであり、全党、全国の諸活動のめざましい発展を大いに促すであろう。

同志のみなさん

一九七六年はまもなく過ぎ去り、一九七七年がすぐにおとずれる。全国の情勢と任務は、同志たちが関心をよせているところである。わたしはここで、一九七六年のわれわれの戦闘の過程を簡単にふりかえり、一九七七年の戦闘任務を展望したいと思う。

一九七六年は、わが党の歴史においても、わが国のプロレタリア階級独裁の歴史においても、まことになみなみならぬ一年であった。それは、全党、全軍、全国各民族人民がきびしい試練をうけた一年であり、われわれが偉大な歴史的勝利をかちとった一年であった。この一年に、プロレタリア階級はブルジョア階級と大格闘をおこない、王洪文・張春橋・江青・姚文元「四人組」反党グループを粉砕した。これによって、わが国は大後退、大分裂をまぬがれ、ひきつづき毛主席の指し示した方向に沿ってプロレタリア革命事業を前進させることができたのである。

一九七六年の、わが党と王・張・江・姚「四人組」との歴史的な大決戦は、毛主席が逝去され、わが党がきわめて大きな困難に直面した状況のもとでおこなわれたものである。したがってそれは特殊な重大性をもっている。

この一年、われわれのもっとも敬愛する偉大な指導者、教師であり、わが党、わが軍、わが人民共和国の偉大な創設者であり、わが党と人民を指導して半世紀あまりも奮戦された毛沢東主席と、さらに、長期にわたる試練をへてきた、毛主席の親

密な戦友、われわれの敬愛する周恩来総理と朱徳委員長があいついで逝去された。去年は、康生副主席と董必武副委員長が逝去された。こんなに短いあいだにこんなに多くの、人民のなかで崇高な威信をもつ偉大なプロレタリア革命家があいついで逝去されたことは、たしかに、わが党中央の指導に、きわめて大きな困難をもたらした。とくに、毛主席の逝去は、わが全党、全軍、全国各民族人民にとってはかり知れない損失であり、われわれの悲しみは言葉でいいあらわすことはできない。

この一年、わが国は、またひどい自然災害にみまわれた。われわれのこのような広大な国家では、毎年のように局部的な自然災害が発生するものである。しかし、今年は、一部の地区で干ばつ、水害、冷害、霜害などの災害がかなりひどかったばかりでなく、竜陵、唐山、松潘地区でマグニチュード七以上の強烈な地震が六回もおきた。とくに、唐山の地震による人民の生命と財産の損失は、史上まれにみるものであった。党中央はすみやかに強力な措置をとって、被災地人民の生産回復、郷土再建を助け、広はんな大衆を指導して震災克服の英雄的な闘争をすすめた。

まさにこうしたときに、王・張・江・姚「四人組」反党グループは、狂気のように党と人民の深刻な困難につけこみ、かれらが長いあいだひそかにたくらんできた、党と国家の最高指導権のっとりの野望をとげようとしたのである。毛主席が逝去される前、かれらは毛主席と党中央の一連の指示にたてつき、鄧小平批判のことで自分たちのやり方をおしとおし、思想的、政治的にひじょうに大きな混乱をひきおこし、経済的にきわめて大きな損失をもたらした。毛主席が逝去されると、かれらは時機到来とばかりに、党と国家の最高指導権のっとりの足どりをはやめ、空前の狂気じみた攻撃をかけ、党と人民を一撃のもとにたたきつぶそうとしたのである。もし、かれらの陰謀が成功したならば、党と国家の大後退、大分裂、大内戦を招いたにちがいなく、かれらは直接、帝国主義、社会帝国主義に投降し、かいらい皇帝としての玉座を侵略者の銃剣によって維持しようとするにちがいなく、その結果、内乱と外国からの侵略が同時におこったにちがいない。われわれは、党が修正主義化し、国が変質し、資本主義が復活するというひじょうに現実的な危険にさら

され、中国の上空には暗雲がたれこめたのである。こうした重大な局面は、建国以来かつてなかったことであり、党の創立以来まれにみるものであった。

その時、国内外の階級敵は有頂天になって喜んだが、わが人民、わが同志および外国の友人と同志は、わが党とわが国の運命を深く憂慮し、心配した。いままでは毛主席がみずから舵をとっていたので、どんな困難や危険にあっても恐れはしなかったが、毛主席が亡くなられたいま、王・張・江・姚一味の狂気のような攻撃に抗することができるだろうか、中国の前途はどうなるのだろうか、光明にみちた中国かそれとも暗黒の中国か。みんなはこう心配していたのである。このような憂慮と心配は至極もっともなことであった。しかし、歴史の主人公は人民であり、人民がこの問題に答えた。一九七六年の二つの路線のするどい、複雑な闘争、とりわけ一九七六年十月の決定的なたたかいにおいて、わが党中央は果断な措置をとり、「四人組」の党と国家権力のっとりの陰謀を一挙に粉砕した。この偉大な闘争のなかで、党の指導のもとに、わが英雄的な人民、英雄的な軍隊、広はんな党員と幹部

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

は、高い自覚とかたい団結を示した。党中央が命令を発するや、広はんな大衆は奮起してこれにこたえ、すぐさま行動をおこし、一発の銃弾も打たず、一滴の血も流さずに問題を解決したのである。全国の軍民は喜びに沸きたち、情勢はひじょうに安定している。上海をとってみても、ここは長年手塩に掛けてきた所なので、ガッチリ押さえこんでいるものと「四人組」は自負していたが、かれらにひどく抑圧され、ふみにじられてきた上海の労働者階級と広はんな人民大衆は早くから、「四人組」のゴリ押しを憎むことはなはだしく、かれらの胸に積もりつもっていた怒りは噴火山のようにすさまじい勢いで爆発し、上海は「四人組」を葬り去る大海原と化したのである。毛主席は、「**中国にもし反共の右派のクーデターが起こるならば、かれらは安寧ではありえず、おそらく短命であるにちがいないとわたしは断言する。なぜなら、九〇パーセント以上の人民の利益を代表するすべての革命者が容認するはずがないからである**」とのべたが、「四人組」の画策した反共右派クーデターの陰謀が日の目を見ないうちに、たちまち覆滅したことは、毛主席のこの論断の

英明さを完全に立証している。

中国人民は勝利の誇りを胸に全世界に宣言する。われわれはきびしい試練にうち勝った、毛主席の革命路線に導かれ、わが党は勝利した、プロレタリア階級は勝利した、人民は勝利した、光明にみちた社会主義の中国は勝利した、と。

わが党と王・張・江・姚反党グループとの闘争は、わが党の歴史におけるいま一つの大きな路線闘争である。王・張・江・姚反党グループは極右派であり、かれらのおしすすめた反革命修正主義路線は極右の路線である。かれらが右であるというのは、マルクス主義の看板をかかげて、修正主義をおしすすめ、分裂をはかり、権謀術数をめぐらし、あらゆる手をつかって党と国家の最高指導権をのっとり、プロレタリア階級独裁をくつがえし、資本主義を復活しようとした点にある。誰がわれわれの敵であり、誰がわれわれの友であるかという革命のいちばん重要な問題で、かれらは社会主義の歴史的段階における敵味方の関係を意識的に転倒し、自分は「左派」「革命派」になりすまして、マルクス主義を堅持している党、政府、軍隊

の各級の革命的指導幹部をその「革命」の対象にした。こうして、かれらは毛主席のプロレタリア階級独裁のもとでの継続革命にかんする偉大な理論を根本から改ざんしたのである。

偉大な指導者毛主席は、わが国と国際共産主義運動の正反二つの面の経験を総括し、マルクス・レーニン主義の対立面の統一についての学説を運用し、社会主義時期の階級関係をつっこんで分析し、プロレタリア階級独裁のもとでの継続革命という偉大な理論をうち出した。毛主席はマルクス主義発展史上はじめて、生産手段所有制の社会主義的改造が基本的に完成されたあとも、社会主義社会の全歴史的段階においては、なお、階級と階級矛盾、階級闘争が存在し、社会主義と資本主義との二つの道の闘争が存在し、資本主義復活の危険性が存在すると、明確に指摘した。したがって、継続革命をおこなわなければならないのである。毛主席は、「社会主義革命をやっているのに、どこにブルジョア階級がいるかを知らない。ほかでもなく、共産党の内部にいる。党内の資本主義の道を歩む実権派がそれである。走資派

はいまなおその道を歩んでいる」とわれわれに教えている。毛主席はまた、「マルクス主義をやるのであって、修正主義をやってはならない、団結するのであって、分裂してはならない、公明正大であって、陰謀術策をめぐらしてはならない」という基本原則をうちだしたが、これはわれわれが党内の走資派を識別する根本的な基準である。毛主席の偉大な理論は、修正主義に反対し、修正主義を防止し、プロレタリア階級独裁をうちかため、資本主義復活を防ぐという現代のもっとも重要な課題を解決し、マルクス・レーニン主義をきわめて豊かにし、発展させた。プロレタリア文化大革命は、ほかでもなくプロレタリア階級独裁のもとでの継続革命の偉大な理論の偉大な実践である。毛主席みずからの指導のもとに、プロレタリア文化大革命は、劉少奇、林彪の二つのブルジョア階級司令部を粉砕するという偉大な勝利をおさめ、党が広はんな人民大衆に直接依拠して党内の走資派にうち勝つ、ゆたかな経験をつんだ。

「四人組」は、かたくなに地主・ブルジョア階級の立場に立って、プロレタリア

階級独裁のもとでの継続革命にかんする毛主席の偉大な理論を極力歪曲、改ざんし、一貫してその闘争のホコ先をわが党に向け、プロレタリア階級独裁に向け、偉大な中国人民解放軍に向け、マルクス主義を堅持する指導的幹部に向けた。この数年、人びとはいつも次のように考えていた。なぜ、かれらは一貫して偉大な指導者毛主席にたてつき、あのように何はばかることなくマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想を改ざんし、毛主席の指示をおさえ、歪曲し、毛主席の戦略的布石をかく乱、破壊するのだろうか。なぜ、かれらはわれわれの敬愛する周総理とその他の年輩のプロレタリア革命家をなんとかして打倒し、死地に追いやらねば気がすまないのだろうか。なぜ、かれらは数十年らい数々の大きな功績をたててきた偉大な中国人民解放軍をあれほど敵視し、あらゆる手をつくして軍隊に反対し、軍隊をかく乱し、われわれの防衛力を崩壊させようとするのだろうか。なぜ、かれらはわれわれの中央と地方の党、政府、軍隊の大勢の指導的同志、毛主席にしたがって数十年も革命をおこない、人民に忠誠をつくし、社会主義の道を堅持する党の指導的中

核を、あれほど憎み、これらの幹部にたいして残酷な闘争、容赦のない打撃を加えるのだろうか。なぜ、かれらは敢然と原則を守り、かれらに敢えて反対し抵抗する若い同志たちを、あれほど手段をえらばずに弾圧し迫害するのだろうか。なぜ、かれらは重大なあやまりをも含めて、あやまりを犯しはしたが改めようとする新幹部、老幹部にたいして、「**前のあやまりを後のいましめとし、病をなおして人を救う**」という方針をとらず、一撃のもとにたたきのめすのだろうか。なぜ、かれらはブルジョア的派閥性をあおり、武闘を挑発し、全面的内戦を引き起こし、労働者階級と人民大衆の内部に分裂をつくり出し、新幹部と老幹部の対立をつくり出し、人民大衆にきわめて大きな災いと苦痛をもたらすのだろうか。なぜ、かれらは民族関係に水をさし、民族間の分裂をつくり出し、中華民族という大家庭の団結を破壊するのだろうか。なぜ、かれらはつねに翁森鶴、張鉄生のような新しい反革命分子にたより、野心に燃え、投機をやり、ぬけ目なく立ち回り、殴打、破壊、略奪をはたらき、国家の財産を盗み、社会秩序に危害をもたらす悪質分子にたよるのだろう

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com